

東備西播定住自立圏共生ビジョンについて

○ 東備西播定住自立圏共生ビジョンとは

- ① 生活圏が隣接する備前市、赤穂市、上郡町の3市町の人口推計は、令和2年の92,491人から10年後の令和12年には、78,820人にまで減少
- ② 3市町の魅力を活かした地域づくりにより、人口流出を食い止め、本地域への人の流れを創出することが喫緊の課題
- ③ 様々な課題解決に向けて3市町が連携・協力し、広域的かつ有機的な取組みを推進するための東備西播定住自立圏を形成
- ④ 医療、教育、産業、交通等の分野で3市町が実施する具体的取組を「定住自立圏共生ビジョン」として策定（計画期間：令和2年度～令和6年度）

○ 共生ビジョン懇談会とは

- 定住自立圏共生ビジョンにおける取組の効果的な推進に際しては、適切な進捗管理が必要
- 進捗管理は、各取組に設定した数値目標の進捗状況を確認し、改善につなげることが目的
- 進捗管理に際し、市民、関係団体、民間事業者等からご意見等いただく場（懇談会）を設置
- 令和6年度は、令和7年度からの新たなビジョンの策定についてもご協議いただく

取組目標の達成に向けた進捗状況について

○ 取組目標の設定

- 共生ビジョンでは、各取組みの進捗度合を検証する観点から数値目標（令和6年度）を設定

○ 取組目標の進捗

（ ）は令和4年度実績

政策分野	令和5年度実績の達成率			
	100%以上	99～80%	79～50%	50%未満
1-ア 医療			1 (0)	2 (3)
1-イ 教育	3 (2)	3 (3)	5 (3)	2 (5)
1-ウ 産業振興	1 (1)	1 (1)	2 (2)	
2-ア 地域公共交通		1 (1)	1 (1)	
2-イ ICTインフラ	1 (1)			
2-ウ 地域内外の住民との交流・移住促進	2 (2)			4 (4)
3-ア 圏域内の職員等の交流	1 (0)	(1)		

- 人流の回復により取組実績がコロナ禍時点(R2)より回復し、コロナ禍前を上回る取組も存在
 - ・ 図書館相互利用登録者 1,984人⇒2,270人 ・ 中学校吹奏楽部交流参加校 0校⇒7校
 - ・ 主要観光施設入込数 179千人⇒257千人 ・ 圏域バス乗車人数 9,431人⇒11,238人
 - ・ こどもと学生ふれあい参加数 0人⇒114人 ・ 定住相談会相談件数 3件⇒70件 など
- 引き続き、医療・教育・交通等の生活機能の充実、地域資源を活用した観光・産業振興、企業誘致などによる雇用の場の確保、地域内外の住民交流や移住の促進など幅広い分野で3市町が連携して魅力ある圏域づくりに向けた取組を推進